

松山戦争集録補遺

P32. 大川進一氏の「さぶさのおちぼ」中の(い), P38, (福田明氏談)のP40上段, 後から13行, 高崎藩の報告中にある
銚子市松岸町良福寺の因明院受砲斃性信士, 慶応4年
10月5日とあるのは, 「因明院受砲斃性信士」が正しく, 同寺の
過去帳に「大森金六郎」とある。

大森金六郎は, 水戸藩史料に北越灰瓜で同年5月14日
戦死したことになっている大森金六郎信敬のことであるが?

この事については, 北越戦から八日市場まで行動と共にして,
大子町の郷士, 黒崎雄二氏が明治39年, 水戸史談会の講演会
に招かれて講演した記録が残されているが?

高崎藩が政府に出した報告は極めて簡単なもので「賊1人と
打捕る」というみのものであり, 福岡明氏の記述通りである。

これは当然のことで, 高崎藩からすれば, 大森金六郎は賊軍の1
人に過ぎず, それなりの報告と云えよう。

史談会における黒崎氏の講演は明治 年のことで, 黒崎氏が
従軍した時は15~6才, 既に40余年が経過しており, 黒崎氏の記憶
違いや潤色もあつたかとも思われる。今となってはどちらが正しい
かさえ知る由もない。

金六郎は分家である。兄は大森弥三左衛門信任と云い,
金三郎と称した。金三郎には兄金之助が居たが早世したため
家督を継いだ。慶応4年3月, 市川三左衛門と北越に走ったが
市川三左衛門の祖先と水戸藩創設以来の家臣で, 大森多膳家
から五代藩主光圀公の時分家初祖信一は西山家老として光圀
公死去まで近侍した家柄であつた。

金六郎には平尾右近家と継いだ金五郎、同姓大森茂次郎家と継いだ金八郎、野中三五郎家と継いだ川頁蔵、奇昭公の命で結城寅寿朝道斬罪の跡 同家と継いだ 道之助(七之助)が居いたが 母は額田久兵衛の女良あさである。

いづれも結城派に同意し、北越脱出の時は兄と行童と共にした。金八郎のみ北三の丸で暗殺、兄弥三左衛門門信任は、慶応4年9月2日会津で陣歿。道之介は馬頭見張場で同日7月下旬戦死している。

金六郎の事蹟についてはまだ調査中で詳かでないが

- 1つは結城に出陣した書生派の中に名を見い出せること。
- 2つ目は武田勢と衝突した元治甲子の乱の時の記録か、大子所史資料集の中に大砲方として名が見えることのみである。

また 家に残るものとしては

1. 嘉永元年の豊書銘のよる鎧櫃かぶつ と
 2. 大刀の冑金、賣金具、左二う巴の紋のみる目釘
 3. 兄弥三左衛門記の時候見舞一通
 4. 金六郎自筆の万延元年前後の記事、風説書
- ぐらいのものに過ぎない。

嘉永元年銘の鎧櫃かぶつには金小孔細糸織の水戸家拜領の鎧冑があったと云うが、恐らく分家する時本家から分与されたものであろうが今はなく、私自身話に聞いただけで見たことはない。

天正年間、修理の必要が生じ、見積らせたところ1万円はかゝると云われたと云、当時1万円あれば家族が1生暮せる金である。

そのため、之を売って現在の土地を買ったと云う。

また、土族復籍の頃か、甲野村六ツヶ野に共有の土地があった。

この土地については、投資したのかどうか判らないが、兎も角、こ

の土地と処分した。その時売却仲介に立つた青柳幸太郎の書面があり、80円であるが査定は120円で、この金ももらったものと思われるが、恐らく「ニ森銀行」(当時下市にあった)にあがけて倒産にあり失ったようである。

ところで金六郎は出陣の時、金小丸の鎧ではなく、具足をつけて出陣したのであると思われる。

そして灰灰で戦死した。同時に戦った反人が「どうせ大森は死んだ」のだから俺がもらって行く。そして松岸で死んだ。死体を処理した松岸の町年寄らは、死体を埋葬した時、具足の裏に書かれた銘を見て大森金六郎であろうと判断し、それらと処分して立派な墓を建ててくれた。これも推測に過ぎない。

その後、大正年間頃か、埋葬にあたられた町年寄の子孫の方が台町に住んでいた時訪れてくれたと言う。

明治42年、祖父信邦が、酒門の共有墓地に改葬したが、父信忠は松岸にあることは知っていたが、行ったことはなかったと言っていた。

私(信英)も松岸にあることを聞いていたが全くどこか知らなかったが、たまたま、大学在学中、釧路市小川町の粟島台貝塚の発掘調査に参加した所、市会議員の大貫通氏が松岸のご自身であることを知つてお願ひした処、早速調査して下さい、良福寺にあることを知り得た。

過去帳には歡喜院に埋葬とあるので、ご往取に伺ったところ、良福寺の下寺であると言う。今は廢寺になってないと言うが、金六郎の墓石は門前の近くにあつて動かした形跡がないところを見ると、歡喜院は現良福寺に隣接して存在した下寺ではなかったかと考えられる。八日市場で百年祭の催された翌年、弟信男も釧路市内に勸勢

していたこともあって、一族の参列を求めて1年遅れて百年祭
と管をことが出来た。

実父 信忠 が 死した昭和47年(1972.)、父のたつての
願いもあって 墓地と新墓地に改葬した。

8月31日の台風のくるさ中での改葬であったが 金六郎の
墓下は丹念に調査したが何一つ発見出来なかつた。

緋毛氈に包んで運んできて埋めたとも、骨壺に入れてきたとも聞
いていたが、残念下ら発見できなかつたので、木箱に土を入れて
新墓地に移した。

改葬後の墓地は今もそのままなので、もう一度掘り直して見たいとも考
えていることを付加しておく。

※ 大貫通氏 銚子市清川町1-690 (S.22.~26.
函達26.4~8.20迄)
良福寺住職